



Career
Design
Support
Magazine

R



STYLE

2019
AUTUMN

Vol.6

キャリアデザイン応援マガジン
麗澤瑞浪中学・高等学校 アール・スタイル

If you can dream it,
you can do it.



鹿折唐桑駅

ししおりからくわ

Shishiorikarakuwa

地球がキャンパス 走って想いを描く 世界初プロ GPS ランナー 志水直樹

1987年生まれ。兵庫県西宮市出身。麗澤瑞浪高等学校卒業。大学卒業後は、一般企業を経験した後、小学校教師となる。2019年3月、小学校教師を退職し、世界初プロ GPS ランナーに。同時に、adidas グループと契約し、アジア人初の runtastic Ambassador に任命される。



GPSランナーは

ほとんどの人は、「GPS Run」って何だろうと思ったのではないのでしょうか。私は、GPS（全地球測位システム）機能を使ったランニングアプリ（Runtastic）を利用して、GPSアートを作成しています。ランニングアプリはとても便利で、走った距離や時間などさまざまな個人の記録を残すことができます。私の場合は、ただ走るのではなく、自分が走った軌跡を記録するアプリを用いて、地図上に絵や文字を描くように走っています。事前に、描く絵をイメージして、地図を見ながら走るルートを決めます。その後の走り方は独特です。同じ道を行ったり来たりして、大通りを横断したかと思えば細い路地裏を走ったり。できあがったGP



ランニングコース原図

SAアートは、SNSを通じて世界に発信しているの、是非ご覧ください。（『GPS志水』で検索）

GPSアートの初作品は、2016年2月に作成しました。現在までの3年半で、GPSアートの作品は170以上になりました。国内では北海道と沖縄以外の45都府県を走り、今まで走った総距離は2300kmを超えました。この距離は日本を縦断する距離です。

「GPSアートを人を笑顔にしたい！」との思いから始めたGPSランですが、今では各地を走りながら、東日本震災の復興支援や各地の地域活性化、また国境を越えた友情を次世代に残すことが目的になりました。

東日本大震災の復興支援

1995年1月17日、私が小学校2年生の時に、阪神淡路大震災を経験しました。自宅の3階で寝ていたため、幸いにも怪我はしませんでした。自宅横の材木倉庫に積んでいた木は倒れ、2階の壁に突き刺さっていました。近くの酒蔵は、そのほとんどが崩壊。近くを走る阪神高速道路も横倒しとなり、町のようなは一変してしまいました。寸断された高速道路から車体の半分が飛び出したバスがありました。あの場所は自宅のすぐ近くです。あの光景は、今でも鮮明に覚えています。

私が経験した阪神淡路大震災もとても大きな被害を出しましたが、今では見事に復興することができました。そこには、



南三陸の教え子たちと

本当に多くの方々との長期にわたる支援がありました。
2011年3月11日、東日本大震災が起きました。再び目にした悲惨な光景、人ごととは思えませんでした。その当時、小学校教師だった私に何かできることはないかと考えていたとき、被災地支援のプロジェクトに携わっていた父の誘いもあり、小学校での教育ボランティアに参加しました。夏休みを利用した1週間程の活動でしたが、2012年からほぼ毎年のように東北へ出かけました。滞在中は、被災地周辺をたくさん走り回りました。しばらくすると、通れなかった道が開通するなど着実に復興が進む一方で、時間経ってもなかなか元通りにはならない現実もたくさん目にしてきました。地元の人たちと触れ合う中から、現



南三陸の方々

地の方々を抱えるさまざまな課題も耳にしてきました。

地元兵庫にいても自分にできる支援は何かを考え続ける中で、走った軌跡を応援メッセージにして、SNSを通じて被災地や全国・世界へと発信することを思いつきました。2016年には、被災地のようすをSNSで発信しながら、釜石から仙台まで200kmを走って縦断しました。そして「いいね!」の数×10円を義援金にする決め、この時は、3万円を義援金として実費で寄付し、小学校に書画カメラを導入しました。プロGPSランナーとなった今年の夏、再び釜石から仙台まで縦断する旅に出ました。立ち寄った町で、地元の人たちを巻き込んでGPS Run。地元の名産品などを一緒に描き、SNSで東北のすばらしさを国内外に発信しました。そして「いいね!」の数×10円、シェアの数×40円と決めて、「全国・全世界のみんなの想いを東北へ」として、宮城県南三陸町の小学校に学習支援金(約10万円)として寄付させていただきます。



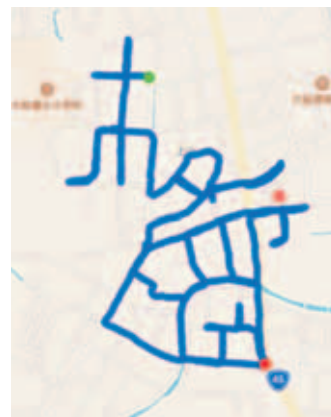
休憩中



200km 縦断2016



金華サバ 2019.8 (石巻市)



ホタテ 2019.8 (大船渡市)



花蓮がんばれ 2018.5 (台湾花蓮)



日本♡台湾 2018.5 (台湾)

皆さんは、東日本大震災直後に、台湾が義援金として200億円を寄付、さらにたくさんの人たちが、応援や支援のために東北に駆けつけてくれた事実をご存知ですか。私はこの話を、被災地の方々から直接聞いていました。そんな矢先に、2018年2月6日台湾の花蓮市で大震災が発生しました。自分にできることは走る。その年の5月に被災地に出かけ、GPS Runの『日本♡台湾』『花蓮加油(がんばれ!)』のGPSアートを作成し、花蓮市の復興状況をSNSで発信

台湾♡日本 GPS-Run



自転車で台湾1周



花蓮市魏嘉賢市長と台日友好会談2019.1

するとともに、台湾の方々に応援メッセージを伝える活動を行いました。そのようすは、複数の現地メディアに取り上げてもらいました。私のFacebookページ『GPS-Run for SMILE』には、35万人の台湾の人たちにアクセスしていただき、多くの人たちに想いを伝えることができました。

同じ年の年末から年始にかけて、再び台湾を訪れ、より多くの台湾の方々にメッセージを伝えたいとの思いから、メッセージを自転車にくくりつけて、台湾を1周(1000km)しました。途中で台湾の友人たちが帯同してくれたり、被災地の花蓮市では、市長と台日友好会見をさせていただくこともできました。

このようにしてできた国境を越えた「人のつながり」や、困ったときはお互いに助け合う精神は、復興支援に留まらず、人間が生きていくうえで最も大切なものだと思います。私たち大人が子どもたちに、しっかりと伝え残していかなければならないものだと考えています。これからも「GPS-Run」とご自分のできる形で想いを込めて、日本中・世界中を走り続けようと思っています。

人生は出会いと経験で変化するもの

高校生の頃の自分からは、現在の私(プロGPSランナー)の姿はイメージできません。しかし、過去のすべてのできごととは現在につながっていると感じています。私は、麗澤瑞浪高校時代に出会った

世界史の先生のおかげで、世界史オタクと呼べるほど世界史が好きになりました。その先生は、授業の内容だけに留まらず、海外で経験してきた数々の話を授業に織り交ぜながら話してくださいました。その話にすっかり魅了され、大学の進学先は歴史文化学科と決めたほどです。大学時代は、バックパッカーとして世界各地(イギリス・フランス、スイス、イタリア、ドイツ、チェコ、オーストリア、タイ、トルコ)を旅行しました。イギリス

にも2度留学し、国内では、留学生の支援ボランティアなど、世界中のことをたくさん学ぶことができました。

世界を旅する中で、日本のインフラ整備の技術の高さを実感したので、測量などを行う会社で勤務することを決めました。ただ、自分が見たこと、経験したこととを伝えるためにも教師になりたいという思いがあったので、3年以内には教師になると決めての就職でした。その後、タイミングよく地元の西宮市で教育支援員の枠があったため2年間お世話になり、その間に通信制大学で教員免許を取得しました。無事に採用試験にも合格して働いてきました。ただ、60歳まで先生をやると考えてはいませんでした。どこかのタイミングでプロGPSランナーになろうと考えていたので、2020年に東京オリンピック、2025年に大阪万博が開催される今こそチャンスだと思いい、プロの道を選びました。

そっこの先

日本全国・世界を走って回るだけではもったいないと思っています。旅先ではおいしい食べ物やお酒、たくさんの素敵な人に出会います。私は高校時代から料理の趣味を持っていましたので、旅先で出会った食材やお酒は持ち帰り、自分で調理します。そして、その地域の味や歴史を知ってもらうイベントを開催して、地元西宮から日本全国へ『食』の魅力を発信しています。地域の魅力が伝われば、

その地域に行ってみたいと思う人が増えるので、ツアーを企画します。そして、現地を訪れると、人と人との交流が生まれ、地域活性化に貢献できると考えています。私のランニングを通して日本全国・世界を元気にする、そこまで自分のランニングを高めていきたいと考えています。

2019年の秋からは、『GPS-RUN EUROPE PROJECT』として、ドイツ→ポルトガル→フランス→イタリア→オーストリア→スペイン→ギリシャ→アルバニア→台湾の順に走り、帰国後は沖縄へ走りに行きます。今後も『GPS-Run for SMILE』活動を全国・世界で展開予定です。



世界中の runtastic Ambassador の仲間たち



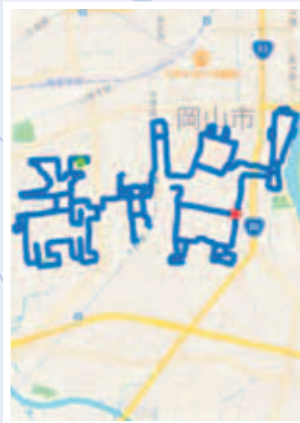
伊達政宗 2017.8
仙台市 37km



Run for SMILE 2018.4
西宮市 11km



KOBE BEEF 2018.11
神戸市 12km



桃太郎伝説 2018.12
岡山市 35km

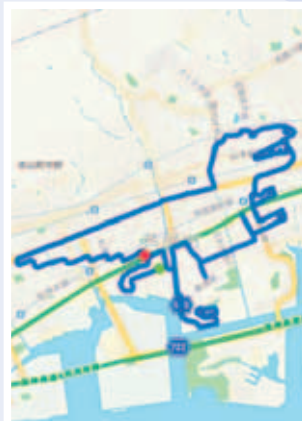
GPS Art Gallery



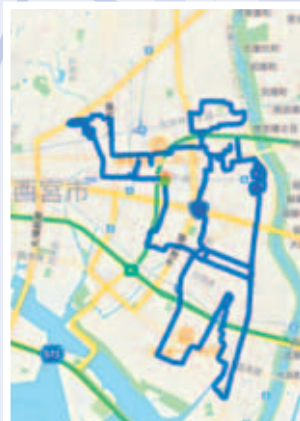
舞妓さん 2019.2
京都市 25.5km



Happy Birthday 2019.5
神戸市 26km



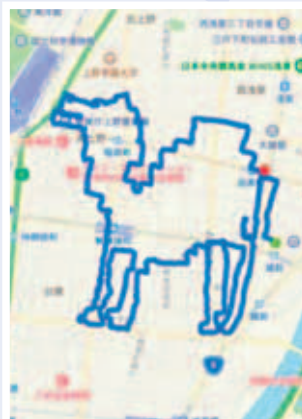
ティラノサウルス 2019.5
芦屋市 23km



マイケルジャクソン 2019.5
西宮市 31.5km



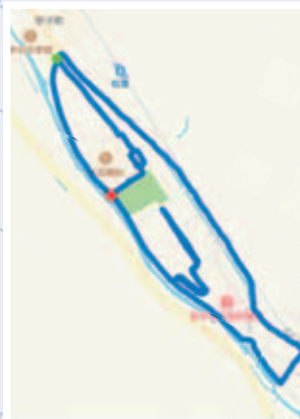
タツノオトシゴ 2019.6
東京都浅草 7.5km



ラクダ 2019.7
東京都上野 10.5km



日本列島 2019.7
西宮市 13km



クジラ 2019.8
釜石市 7km

私の仕事はレンジャー 自然の美しさや 愛おしさを 伝えることが使命

西尾有香音

1994年生まれ。岐阜県恵那市山岡町出身。麗澤瑞浪高等学校卒業。平成25年信州大学農学部森林科学科に進学。現在は、公益財団法人キープ協会環境教育事業部に所属、フォレストーズスクールを担当するレンジャーとして活躍。



ガイドをしている西尾さん（右から2番目）

理想のレンジャー

一般的には、自然保護全般に携わる仕事をしている人のことをレンジャーと呼びます。その中で、私がメインとしている活動は、自然のことについて伝えるガイドです。

大学生の頃、鹿児島県の屋久島を訪れた際に、とても素敵なレンジャーに出会いました。それまでのレンジャーのイメージは、花や鳥の名前を多く知っている、知識が豊富な人でした。しかし、その方はそれだけではなく、どこにでもある草花すらも、見方を変えるだけで、より美しく、よりミステリアスにも感じさせてくれました。今まで、様々な団体のレンジャーを見てきましたが、身近にあ

る自然にもスポットライトを当て、輝かせてくれる手法を見たのは初めてでした。その方が勉強したところがキープ協会だったので。私は、あの時の感動が忘れられず、キープ協会で学びレンジャーになることを目指しました。

レンジャーとして3年目を迎えた現在、毎日、全力投球で取り組んでいます。明日、クビになったとしても悔いがないくらいです。クビにはマイナスのイメージがあるかもしれませんが、新しい環境との出会いや、自分の可能性がどのように広がるのかを考えるだけでワクワクします。

そして、現在の私がレンジャーとして大切にしていることは「嘘をつかない」ことです。同じ場所でガイドしていても自然環境・お客様・心情は、常に変化していきますから、ガイドの内容は毎回変えています。その時に、自分が本当にすごいと思ったものを、心の底から「すっつっこいね!!!」と伝えられる内容にすることが嘘をつかないということですが、もちろんお客様が喜ぶ定番ネタも使いますが、着飾り過ぎて、自分の心に嘘をついたガイドでは、お客様の心は動かせませんから。

私の原体験

私の実家は、自然豊かな地域にあります。周囲は、ぐるり360度山に囲まれ、友達の家はすぐ近所にはありませんでした。小学校の頃は、学校から帰ると森の中で自然を相手に遊ぶのが日課でした。



小さい頃から自然大好き (右側：西尾さん)

木登りをしたり、サワガニ採りをしたり。また、野草の絵を描いたり、詩を書いたり。父の「へぼ獲り」について行ったこともありました。「へぼ」とは「クロスズメバチ」のことで、私の住む地域では昔から食用とされてきました。夏にクロスズメバチの巣を探して持ち帰り、家で巣を大きく育てて、秋に幼虫を食べるのです。巣から幼虫をつまみ出す作業は、我が家の恒例行事でした。幼虫は、祖母がおいしく煮付けてくれました。

実はこの「へぼ獲り」、巣を探すのがとても楽しいのです。まずは、えさとなる肉を用意します。そこに飛んできたハチは、あごで肉をかみちぎり、肉団子をつくって巣を持ち帰ります。ハチが肉団子作りに夢中になっている間に、そーっと目印となる紙や綿などを体にくくりつけます。後は、飛び立ったハチの後を必

死に追いかけて巣の位置を特定するのです。立派な大人達が、少年のように森の中を走り回る姿は、とても素敵ですよ。今でこそ、テレビなどで昆虫食が特集される時代になりましたが、我が家ではブームになる前から昆虫食が普通でした。あるとき、祖父母がイモムシ(カミキリムシの幼虫)を嬉しそうに持って帰ってきて、「これ、うまいぞ」と差し出してくれる家でしたから(笑)。

褒めてくれた先生の存在

小学生の頃の話です。私の通っていた小学校では、家庭で学習したことを自由(自学)ノートに書いて先生に提出する宿題がありました。多くの子は、漢字ドリルや計算ドリルの勉強を、そのノートに書いていました。しかし私は、「四つ葉のクローバーはどこに多いのか」と題して観察結果をまとめたり、「何で紅葉するのだろう」と調べ学習をしたノートを提出していました。小学校3年時の担任の先生は、「あなたのノートを見るのはとても楽しみ、毎回、一番最後に取っておくのよ」と言ってくれました。先生の言葉がとても嬉しくて、「もっと先生を喜ばせてあげたい!」と、さまざまなことについて調べ学習をするようになりしました。すると先生は、「そんなに好きなら、科学者という道もあるし、好きなことを仕事にすることだってできるのよ」と教えてくださいました。私はその言葉をずっと信じて生きてきて、現在に至っています。

辛い経験も今に活かせる

私は、中学時代の約2年間、いじめられていました。母からは、「神様は乗り越えられない試練は与えないよ」という言葉をかけてもらいました。暑さや寒さ、晴れるか雨ふりか、自分ではどうすることもできません。幼い頃から自然の中で過ごしてきたお陰か、現実を受け入れ、前を向くしかないという覚悟はすんなりできていたように思います。何とか状況を良くしようと、「何で自分がこういう状況なのだろう」とか、「何であの子はこういうことを言うのだろう」と常に考え、分析していました。同じ種類の植物であっても、同じ大きさ、形のもは一つとしてありません。当時はとても辛い思いをしました。振り返ればたくさん気づきを得ました。みんな違って当たり前、違うことが素敵で面白い、自分自身でいいのです。相手を自然のまま受け入れる謙虚で広く柔軟な心、どんな状況でも前を向く強い心はこのときに身に付けたと思います。

レンジャーという仕事は、幼児から大人まで、さまざまな世代の方を対象とします。相手が何を感じ、何を求めているのか、さまざまな気持ちに寄り添うことが求められます。「あなたはそう思うのね、面白いね」と自然に湧き出る感情は、今の仕事に活かされています。

最近気づいた大切なこと

昨年の夏、狩猟免許を取りました。深

刻化する鹿の食害を知り、悲観するだけでなく行動する必要性を感じたからです。現在は、地元のハンティングクラブに所属し活動しています。そこで捕らえた鹿はその場で捌きます。スーパーでお肉を買おうと、必ず冷蔵庫に入れ、冷たさで新鮮さを保つと思いますが、一番新鮮な捌きたてのお肉はとても温かいのです。「そうか、命をいただいたのだ」。このようなたたり前のことに、改めて気が付くことができ、心が震えた瞬間でした。

レンジャーの仕事は、日々、このようなさまざまな出会いの中にあり、底なし沼のように奥深いです。その奥深さに悩まされることも多々ありますが、大好きな自然と人をつなぐことができるこの仕事を、これからも生き活きと、コツコツと、のびのびと楽しもうと思います。



参加者が作った野花のスライドショー

受験勉強は自己管理 能力を身に付ける 最高のトレーニング

柳原将希

1995年生まれ。岐阜県瑞浪市出身。麗澤瑞浪中学・高等学校卒業。平成26年名古屋大学医学部医学科に進学し、現在6年生。高校時代は選抜クラス（現特進コース）に所属し勉学に励む。

医師を志すも……

私が医師を志したきっかけは、医師である伯父の影響がありました。親戚同士が集まった際に、父や伯父たちが話している仕事の話が面白く、いつも近くで話を聞いていました。そして医師という職業に興味を持ち、より詳しく知りたくなった私は、伯父に頼んで病院見学をさせてもらったり、具体的な医師の仕事について話を聞かせてもらいました。

高校生になる段階では、明確に医師を志すことを決め、中学時代に取り組んでいたテニスにも一区切りをつけ、受験勉強に打ち込むことを決めました。ところが高校1年生で受けた模試では、志望校判定でことごとくE判定。この経験が私に強烈なインパクトを与え、勉強モードに完全に切り替わったことを鮮明に覚えています。

受験勉強と自己管理能力

受験勉強は決して楽ではありません。苦しい時間もたくさんありました。しかし、今になって思えば、自己管理能力を高めてくれる最高のトレーニング期間だったと思います。その自己管理能力は、大学生になった今でも役立っていますし、社会人になってからも絶対に必要な能力だと感じています。

私は、勉強を始める前に、必ず今日やるべき勉強の計画を立てていました。人によっては計画倒れに終わってしまうものもあるようですが、しっかりと計画を立て

て実行しているうちに、自分の能力というものが分かってきます。勉強の計画と実行の精度は日に日に高まっていきます。私の集中力は最大で100分だったので、それより前のタイミミングで勉強する教科を変えるようにしていました。

また私は、勉強した証を残すようにしていました。例えば、勉強に使った裏紙は捨てずに溜めておきました。使い終わればただの紙資源ですが、積み上げておけば宝の山に変わるのです。約4500枚程の裏紙の山ができあがり、受験の際には、「自分はこれだけ勉強したのだから大丈夫」という自信にもつながりました。さらに、毎日の勉強時間を卓上カレンダーに書き込むこともしていました。この時間は、机に向かっていただけの時間ではありません。3時間机に座っていたとしても、



1日の初めにやるべきことを決める

2時間半しか勉強していなければ2時間半と書くのです。書き始めてから受験日までの勉強時間は、3500時間ほどになりました。この積み上げた時間も、受験に臨む私に、自信を与えてくれました。



努力の証 裏紙4500枚

卓上カレンダーを利用して勉強時間の管理

徹底した時間管理

私は徹底した時間管理を心がけています。1分1秒を無駄にしたいと思っ
ています。例えば1日5分を無駄にした
とします。1週間で35分、1カ月で約2

時間半も失うこととなります。

時間に関するエピソードはいくつかあります。私は、昼休みになってすぐに食堂へ行くのではなく、わざと時間を遅らせて行くようにしていました。まずは教室に残って20分間勉強してから食堂へ行くのです。20分後に食堂へ行くと、混雑を回避でき待ち時間なしで昼食を食べることができました。おまけに毎日20分の勉強時間ですが、学校のある6日間で合計2時間になります。大きな積み重ねです。家では、お風呂に入るときやご飯を食べるときに、タイマーをかけて時間管理をしていたのですが、それはさすがに親も心配していました……(笑)。

医学部生と1つの6年間

医学部生の6年間を大雑把に紹介すると、1年生で教養科目、2年生で解剖実習、3年生で研究、4年生は座学、5年生は6年生前半まで臨床実習として病院へ、6年生の後半は国家試験に向けて勉強するという感じです。2年生になると献体を用いた解剖実習がありますが、このときに医学部生になったことを強く実感しました。人体の構造を学習するために、3〜4人の学生で一つの献体を解剖させていただきます。解剖実習が終わると、ご遺族と一緒に火葬にも立ち会わせていただきます。医師になるための勉強には、このように献体してくださる方々の尊いご協力を得ているのです。

入学して驚いたのですが、他大学も含め医学部では、多くの人が部活動に所属

する文化があります。私も4年生の夏まで、部活動に所属していました。医学部の大会などもあり、かなり本格的に練習もします。中には高校時代に全国大会



一緒に実習に取り組んだ仲間たち



テニス部に所属して部活動もがんばりました

に出ている強者などいます。5年生になるまでは、塾や家庭教師、飲食店などでアルバイトもしました。長期休みには、アメリカ、ベトナム、中国、オーストラリアなど海外旅行にも出かけましたので、勉強だけでなく他の大学生と同じようにさまざまな体験もできました。

医師と1つの未来

医師として社会に出てすぐは、右も左も分からない状態で奮闘していくことになると思います。その中でも、目の前の患者さん一人ひとりと向き合い、知識を深め、技術を磨いていきたいと思います。さらに、人格も磨き、日本の医療に貢献できる立派な医師になれるように、日々努力していきたいと思っています。

さらにその先、自分がどのような形で社会に貢献していくことができるのか、まだ想像できないというのが正直なところだと思います。それは、10年後、15年後には、今とは全く違う社会が待っていると思われるからです。例えば15年後には、3人に1人が65歳以上という、超高齢化が今以上に進んだ社会が待っています。医師不足も非常に深刻化しているかもしれません。医療の在り方も、今とはかなり変化しているかと思っています。

その中で、医師としての役目をしっかりと果たしつつ、その時の社会が求めることに対して、自分にできることは何かをしっかりと考え、向き合っていきたいと思っています。その際、受験勉強で培った自己管理能力が生きてくるはずですよ。

麗澤瑞浪に 学んで

No. 006

半田彩乃

麗澤瑞浪高等学校卒業。兵庫県神戸市出身。
本校特進コースに所属し、勉学に励み、平成
31年4月より、大阪大学経済学部に進学。



麗澤瑞浪での様々な出来事を思い返してみようと、嬉しかったことや楽しかったこと、辛かったことの全てが、自分を成長させてくれたのだと改めて思います。高校1年生や2年生の時には、一日一日を何とか乗り越えるのに必死で、自分が成長していることに気づきもしなかったのですが、卒業を間近に控えた今の自分と入学当初の自分とは、本当に大きな差があると思います。

私がこの学校に入ろうと思った唯一の

動機は、勉強を頑張って地元の誰よりも良い大学に入ることでした。そのためには、寮のある学校に通うことがとても重要でした。私は、家で勉強するのは無理だとあきらめていたので……。今思えば中学3年生の時の私が、家で勉強できないという自分の欠点をしっかりと見つめて、それを親や先生に解決してもらうのではなく、「自分」で解決しようとして実際に行動を起こしたところから、私の成長は始まったのだと思います。

寮に入った私を最初に待ち受けていたのは、寮での細々とした規則や上級生との厳しい上下関係でした。今まで自分で自分以外のこと、ましてや自分のことさえもしてこなかった私にとって、この二つを守るには本当に大変なことでした。当然何度も注意され、怒られ、自分は何でこんなに寮の仕事ができないのだろうと泣いた日もありました。何もかも嫌になつて先輩に反抗してしまつた日もありました。

それでも寮の先輩方は私のことを見捨

てず見守って下さっていました。最上級生という同じ立場になった今だからこそ分かるのですが、怒られる方より怒る方がよほど大変で心が痛むのです。そのことを身をもって教え実践して下さいました。先輩方にはとても感謝しています。

なかなか上手くいかない寮生活と反対に、学校生活はとても順調なものでした。苦手意識のあつた人間関係も、同じクラスの子の支えや寮生活で鍛えられたコミュニケーション能力のおかげで、多くの友人を作ることができました。特に嬉しかったのは、谷川研修の時にバスで隣の席になった女の子が私に「パンちゃん」というニックネームを付けてくれたことです。今まで友達からニックネームなんて付けられたことがなかったので、この名前で友達から呼んでもらえるようになった時は本当に嬉しかったです。大學生になつてもこのニックネームを使おうと思っています。部活動でも優しい先輩、後輩、同級生、そして顧問の先生方のおかげで、とても充実した時間を過ごすことができました。同級生の中で女子は私一人だけでしたが、今では迷うことなく水泳部を選んで良かったということができます。

もちろん楽しい学校生活といっても良いことばかりではありませんでした。人間関係で悩むこともあれば、勉強が伸び悩む時もありました。でもそんな時は、必ず担任の先生が声をかけて下さいました。そして解決するまで、時間を割いて話し合っていました。その的確なア

ドバイスには、本当に何度救われたか分かりません。本当に感謝しています。ありがとうございました。最初が良い大学に入るための通過点程度にしか考えていなかった高校生活ですが、多くの人との関わり合い、絆の中ですぐに自分が学ぶことができました。寮があるというだけで選んだこの学校で、自分がこんなにも変わるなんて思ってもいませんでした。3年間、麗澤瑞浪に通わせてくれた両親に感謝しています。今の私と3年前の私とは大きな差があると思います。それは感謝の心を知っているか否かです。大學生になつても社会人になつてもこの心を忘れずに生きていきたいと思っています。





連載「西尾先生の経済教室」 Vol.3

このコーナーでは、中学生のみなさんに向けて“知っているようで知らない経済のコト”を、紹介していきます。これを読めば、経済やお金について、ちょっとだけくわしくなれるはずです！「経済」と聞くと難しそうなおイメージがありますが、みなさんが興味を持つきっかけになればうれしいです。

1995年生まれ。岐阜県恵那市出身。麗澤瑞浪中学・高等学校卒業。高校時代は選抜クラス（現特進コース）に所属し勉学に励む。部活動はゴルフ部に所属。平成26年南山大学経済学部に進学。現在は金融系ベンチャー企業で株式投資を行っている。



テーマ 株式投資を知ろう

■株式投資による3つのメリット

それは、

- (1) 経済の動きに詳しくなれる
- (2) 論理的思考力が身につく
- (3) 自分のためになる

というものです。

まずは、(1) 経済の動きに詳しくなれるということについてです。株式投資は、株式を買うことで会社に出資していると考えられ、間接的に会社経営に関わることになります。そこで、どの会社の経営者になりたいかをきちんと考えて投資する必要があるわけです。その時にチェックすべきポイントとして、①信頼してお金を預けられる企業か、②将来も成長しそうか、があげられます。信頼してお金を預けられるか確認するためには、企業の現状をよく知らなければなりません。正しくお金を使っている会社なのか、お客さんに喜ばれるモノやサービスを生産している会社なのかをチェックします。そのためには、財務諸表とよばれる“企業の健康診断書”を読んで企業の現状を理解するとともに、世界全体を見渡してお客さんがどのようなモノやサービスにお金を払っているかなどを知らなければなりません。また、将来も成長する会社かどうかは、これから世の中でどのようなものが流行していくのか、政府の政策に影響されないかなどをチェックし、頭を使って予想する必要があります。これらは、いずれも経済のニュースを追っていないと手に入れない情報なので、株式投資をしていると、自然と経済に詳しくなれるのです。

次に、(2) 論理的思考力が身につくというのは、株式投資では常に「なぜ？」という問いかけを繰り返しているからです。「企業の売上高が伸びている」という情報を見つけたら「なぜ？」と問いかけますし、「企

業の利益が減っている」という情報を見かけても「なぜ？」と問いかけます。こうすることで、「売上が増えているのは世の中に求められているからだ」、「利益が減っているのは、その会社の製品が売れなくなっているからだ」という答えが見えてくるので、その会社の間接的な経営者になっても大丈夫かどうかを判断できるようになるのです。株式投資では、このような思考法で投資先を探していくので、物事を順序立てて論理的に考え、整理し、説明する力が身につきます。

最後に、(3) 自分のためになるというのは、株式投資において一番大きくて嬉しいメリットだと思います。なぜなら、私たちの世代は将来の年金が少なくなるのではないかと、最悪の場合、もらえないのではないかと噂されていますが、株式投資の経験があれば、お金を自分で増やすことができるからです。もちろん、そうなるためには経済や経営などをたくさん勉強して、毎日頭を働かせて投資先を見つけなければなりません。しかし、こうして苦勞して身につけた知識や経験は、必ず役立つと言われていています。さらに、早い段階から株式投資を始めておけば、将来資産を大きく増やすことができます。例えば、大学に入学した18歳からアルバイトを始めたとしみましょう。そのアルバイト代の中から毎月1万円ずつ、年金がもらえる65歳まで株式に投資し、世界経済の成長率3%で運用したとします。すると、65歳になる前に資産が1億円を超えるのです！これだけあれば、老後も安心ですね。65歳で1億円の資産を持っていれば、思う存分好きなことをして暮らすことも夢ではありません。

株式投資のメリットは上記の通りですが、失敗することもあります。私も、信頼して買った株式の価格が下がってしまうことはよくあります。その時はすごく悔しいと思うのですが、何十年も長期にわたって投資することや、プロにお金を預けて運用してもらって投資信託に投資することで、この失敗を軽減することができますという研究結果があります。この辺りを書き始めると長くなってしまいますので、今回はここまでとします。

学校・寮見学
随時受付中!
お気軽に
ご連絡ください



麗澤瑞浪中学・高等学校は北海道から沖縄県まで全国から生徒が集う寮のある学校です。帰国子女もたくさん入学しています。

交通のご案内



R-STYLE [Vol.5]



R-STYLE [Vol.4]



R-STYLE [Vol.3]



R-STYLE [Vol.2]



R-STYLE [Vol.1]



<https://www.mz.reitaku.jp/course/rstyle/>

R-STYLEのバックナンバーはこちらからお読みいただけます

麗澤瑞浪中学・高等学校

〒509-6102 岐阜県瑞浪市稲津町萩原1661
TEL:0572-66-3111 FAX:0572-66-3100
<https://www.mz.reitaku.jp>

学校法人 廣池学園

□麗澤大学 TEL:04-7173-3601
□麗澤大学大学院 TEL:04-7173-3633
□麗澤中学・高等学校 TEL:04-7173-3700
□麗澤幼稚園 TEL:04-7173-3526